この本の使い方　4

第一部

外国語　11
私は五十四歳で英語の勉強をしていますが、若くないので大変です。今日はどうしても学校に行きたくありません。

私は美人　17
好きな人に会えるので、陽子はきれいにして出かけました。電車の中の人たちはみんな陽子を見ていますが……。

エレベーターボーイ　23
大学生の中村大介はアルバイトをしていますが、そこに、あまり会いたくない友達が来て……。

第二部

鼻　芥川龍之介　31
内供の鼻はやっと短くなりました。しかしどうしたのでしょう。みんな内供の顔を見ると笑い出してしまうのです。

＊タクシーの運転手　46

吾輩は猫である（抜粋）　夏目　漱石　51

吾輩は猫だ。家の人がここにいないうちに、したいことがある。餅を食べてみたいと思っているのだ……。

一房のぶどう　有島　武郎　63
昼休み。だれも教室にいない時、僕はジムの机のふたを開けました。そして、赤と青の絵の具を急いでポケットの中に入れました……。

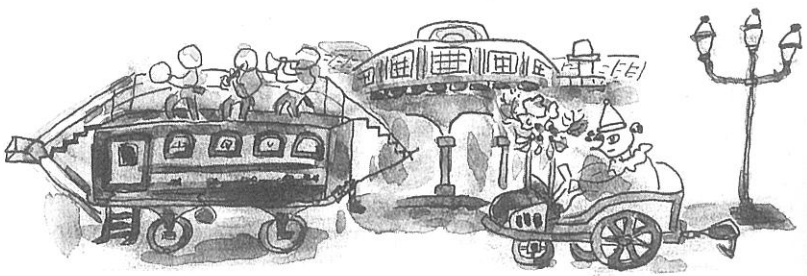
＊やさしいどろぼう　84

羅生門　巖谷　小波　87
渡辺綱の家には鬼の腕を入れた箱が大切においてありました。ある夜遅く、とんとん、とんとんと家の戸をたたく人がいます。

＊お仙　104

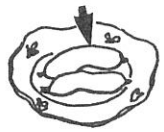
注文の多い料理店　宮澤　賢治　111
男のひとが二人、山の中のレストランに入りました。きれいなレストランですが、何だか変です。

あとがき　132

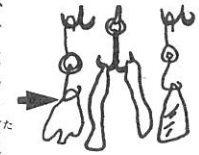


①池の尾＝場所の名前
②内供＝えらいお坊さん。えらい僧

③センチ＝センチメートル（centimeter）
1cm＝1／100m
④ソーセージ＝sausage



⑤ぶらさがる＝上の方はついたまま、さがっている



⑥不便＝便利でないこと
⑦茶わん＝茶を飲んだり、ごはんを食べたりする時に使うもの
⑧弟子＝生徒
⑨木の板で鼻を持ち上げる＝〈大きな絵

1

1

①池の尾の人たちは、みんな②内供の鼻のことを知っていた。その鼻は、長さ十八センチ③くらいで、④ソーセージのような形をして、顔の真ん中に⑤ぶらさがっていた。

内供はもう五十歳以上だが、若い時から今まで、ずっとこの鼻がいやだと思ってきた。だから、内供は人と話をしている時、「鼻」ということばを聞くのが一番いやだった。

内供は二つの理由で、自分の鼻が嫌いだった。一つは、長い鼻が⑥不便だったからだ。御飯を食べる時も一人では食べられない。一人で食べれば、鼻が⑦茶わんの中に入ってしまう。だから、内供は御飯を食べている間、⑧弟子を自分の前に座らせて、⑨木の板で鼻を持ち上げていてもらうことにしていた。けれども、毎日、こうやって食事をするということは、内供にも弟子にも大変なこ

1